

## 北海道における日本甜菜製糖旧日本の社宅街について

正会員 ○辻原 万規彦\* 同 角 哲\*\*  
同 今村 仁美\*\*\*製糖業 製糖工場 社宅  
北海道製糖 北海道興農工業 帯広

## 1. はじめに

本稿は、戦前期日本の主要な産業の一つであった製糖業を対象に、各地に建設された工場と社宅街の形成過程を明らかにして比較することを旨とする研究の一環である。既に沖縄県の大東島<sup>1)</sup>と北海道の製糖工場に付随する社宅街<sup>2)</sup>については報告した。続いて、本稿では、帯広市に残る日本甜菜製糖旧日本社宅街の整備過程と残存状況について報告する。なお、当時の用語や呼称をそのまま用い、引用文などは、原則として現代仮名遣いに改めた。

## 2. 日本甜菜製糖旧日本社宅街の配置図

現在の日本甜菜製糖の前身の一つである北海道製糖は、T8(1919).6月に設立された。当初の本社は東京に置かれたが、同年11月には帯広町(現在の帯広市)に移転し、同じ帯広町内で2度移転した。いずれも、帯広工場<sup>3)</sup>から、省線帯広駅を挟んで約4~5km北に位置していた。また、S35(1960)には東京へ本社を移転した。

日本甜菜製糖総合研究所(帯広市)には、『工事申請書』として一纏めにした書類綴りが、S19年度分からS30年度分まで所蔵されている。同じく総合研究所所蔵の図面「本社々宅配置図」(S35.8月)、『自昭和29年至昭和31年度竣工工事予算書』や国土地理院所蔵米軍撮影空中写真などからS35当時の旧日本社宅街を復原した(図1)。また、それぞれの社宅の概要について表1にまとめた。

## 3. 日本甜菜製糖旧日本社宅の残存状況

S35に本社を移転させた後、少なくとも4, 8, 15~19, 32号社宅の8棟は帯広工場に移築された。また、大正期に建てられた9~12号社宅は、取り壊されたと考えられる。社宅街の北半分の社宅がなくなったため、この部分の現在の区画は当時の区画とは大きく異なっている。

この社宅街は、当時、帯広の市街地との境界に立地しており、背後には広大な農事試験場が広がっていた。しかし、戦後のことであるが、「市民から社宅の人は特別な階級(富裕層)に思われた」と指摘され、小さな街区ながらも良好な居住環境を提供していたと考えられる。

現在残っている旧2号, 5号, 6号社宅の3棟を対象に、2010年8月18日と19日に現地調査を行った。

## (1) 旧本社2号社宅(現SI邸)(図2)

図1では描き入れているが、実際には、S31に北側の部分を残して、南側は減築し、図2中の西側の10帖の座敷が増築された。S29現在の図面からは変更されている箇所

もあるが、大正期の状態を比較的良く保っている。

## (2) 旧本社5号社宅(現M邸)(図3)

もとは二戸建てであったが、現在は西側半分の一戸のみが残っている。大正期には、後述の旧6号社宅と同じ形式のものが建っていたが、その後建て替えられたと考えられる。日本甜菜製糖が所蔵する「工事申請書」には、この旧5号社宅に関する書類がほとんど現れてこないことなどから、子会社の十勝鉄道の社宅の可能性が高い。

## (3) 旧本社6号社宅(現SA邸)(図4)

大正期の図面「北海道製糖株式会社社員宿舍乙二戸建第一号」が残っている。その後、何度か改築、修繕などが施され、玄関は北入りから南入りに改築された。現在の所有者は、S30年代末もしくは40年代初めに購入し、旧北海道拓殖銀行の社宅として貸し出していたとのことである。建設当時の状態を比較的良く保っている。

## 4. 他の製糖会社の本社所在地

戦前期に日本の影響下にあった地域の製糖会社の多くは、工場での製糖が開始された後は、本社を主力工場の敷地内もしくは隣接して設置した。台湾<sup>3)</sup>では、明治製糖、塩水港製糖、東洋製糖、新高製糖、昭和製糖などであり、南洋群島の南洋興発や樺太製糖も同様である。例外は沖縄製糖で、西原、嘉手納、高嶺、宮古の各工場から離れた那覇市に本社をおいた。したがって、北海道製糖のように、比較的近いとは言え、工場と本社を離して設置し、本社用の社宅街を建設した事例は珍しい。その理由は、今のところ不明であるが、実質上の親会社である帝国製糖の本社と工場の敷地が台湾総督府鉄道線の台中駅に隣接しており、それに倣い、北海道製糖もできるだけ省線の駅に近い位置に本社を構えた可能性もある。

謝辞：資料収集と現地調査では、日本甜菜製糖株式会社関係者の方々(特に田高滋子氏)、北海道大学大学院・教授 角幸博先生にお世話になった。記して謝意を表したい。なお、本稿の一部は、平成20~22年度科研費(若手研究(B)、課題番号20760430)(基盤研究(C)、課題番号20560598)による。

## 参考文献

- 1) 辻原, 今村, 安浪: 戦前期の大日本製糖大東製糖所と北大東出張所社宅街について, 建築学会大会学術講演梗概集, F-2, pp.163~164, 2009.8.
- 2) 辻原, 角, 今村, 安浪: 戦前期の北海道における北海道製糖と明治製糖の社宅街, 建築学会大会学術講演梗概集, F-2, pp.457~458, 2010.9.
- 3) 台湾については、以下の工場の社宅街を対象として、2009年の夏と2010年の夏に、概況と現状を調査した(名称は1941年時点)。調査結果の詳細は稿を改めたい。台湾製糖の橋仔頭, 灣裡, 阿緜, 東港, 台中, 月眉の各製糖所。大日本製糖の北港, 虎尾, 大林の各製糖所。明治製糖の蒜頭, 総爺, 溪湖の各工場。塩水港製糖の花蓮港製糖所大和工場, 岸内, 新宮の各製糖所。台東製糖(のち明治製糖)卑南工場。

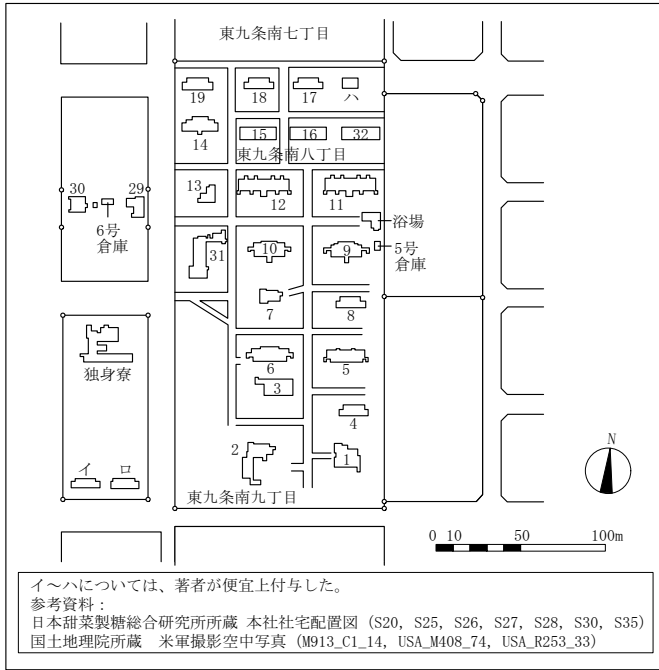


図1 日本甜菜製糖旧本社社宅の配置図 (昭和35年現在)

表1 日本甜菜製糖旧本社社宅の一覧 (昭和35年現在)

名称	戸数	坪数	間取り (一戸分)	備考
1号	1	58.03	応12.5, 10, 10, 6, 4.5, 3, 3, 台, 浴	T9新築, S20常務社宅
2号	1	69.31	10, 8, 7, 6, 2, 台, 浴	T9新築, S20専務社宅, S31南側 (10, 書斎10, 8) 減築10帖増築
3号	1	48.33	10, 8, 8, 4, 5, 台, 浴	S25常務社宅として新築
4号	2	36.00	8, 6, 4.5, 台	S22新築, 8・17・18と同型, S28縁側増築
5号	2	63.33	8, 8, 6, 3, 台, 浴	T9新築, 6と同型, S23~30の間に建替
6号	2	57.58	8, 8, 6, 3, 台, 浴	T9新築, 5と同型
7号	1	34.08	8, 8, 6, 6, 台, 浴	S23部長社宅として人舞原料事務所から移築
8号	2	36.00	8, 6, 4.5, 台	S22新築, 4・17・18と同型, S28縁側増築
9号	2	54.41	8, 8, 6, 3, 台, 浴	T9新築, 10と同型
10号	2	56.58	8, 8, 6, 3, 台, 浴	T9新築, 9と同型
11号	4	79.67	7.5, 6, 6, 台	T9新築, 12と同型
12号	4	79.67	7.5, 6, 6, 台	T9新築, 11と同型
13号	1	24.63	8, 8, 6, 4.5, 台, 浴	S21弓場を移設し社員宿舎に改造, S30増築
14号	2	43.42	8, 8, 6, 台, 浴	S25には存在, S30改築
15号	2	55.08	8, 8, 6, 3, 台, 浴	S25部課長宿舎として新築, 16と同型
16号	2	55.08	8, 8, 6, 3, 台, 浴	S25部課長宿舎として新築, 15と同型
17号	2	36.00	8, 6, 4.5, 台	S22新築, 4・8・18と同型, S28縁側増築
18号	2	36.00	8, 6, 4.5, 台	S22新築, 4・8・17と同型, S28縁側増築
19号	2	43.00	8, 6, 6, 台, 浴	S25社員宿舎として新築
29号	2	39.56	8, 8, 台+8, 6, 6, 台	S27には存在
30号	不明	30.00	不明	S27には存在, それ以外の詳細不明
31号	(3)	89.38	8, 8, 台+8, 8, 6, 台+8, 6, 6, 台	S20合宿・倶楽部, S26合宿部分を3戸建に改造
32号	2	40.00	8, 6, 6, 台	S30部課長宿舎として新築
独身寮	15人	128.37	6×15, 8, 8, 食12, 熨18, 応8	S26新築, S28食堂・集会室を清水工場から移築
共同浴場	-	31.92	浴室6.7×2+8, 4	S20には存在, S25出入口増設
5号倉庫	-	10	不明	S22には存在, それ以外の詳細不明
6号倉庫	-	10	不明	S27には存在, それ以外の詳細不明
イ	不明	不明	不明	S35に存在, それ以外の詳細不明
ロ	不明	不明	不明	S35に存在, それ以外の詳細不明
ハ	不明	不明	不明	S35に存在, それ以外の詳細不明

「倉庫」以外は木造平屋亜鉛引鉄板葺 (独身寮のみ2階建)

「5号倉庫」は木造中2階付亜鉛引鉄板葺, 「6号倉庫」は土造中2階付亜鉛引鉄板葺

「坪数」は昭和30年現在

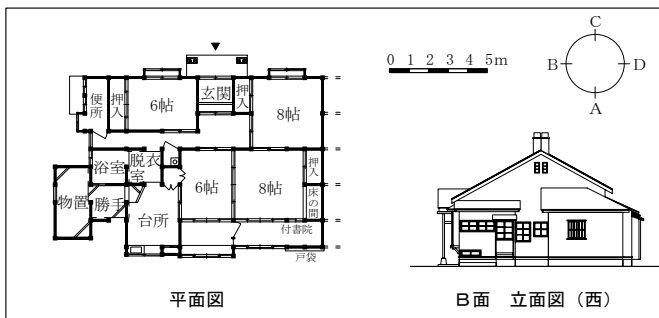


図3 日本甜菜製糖旧本社5号社宅の現状図

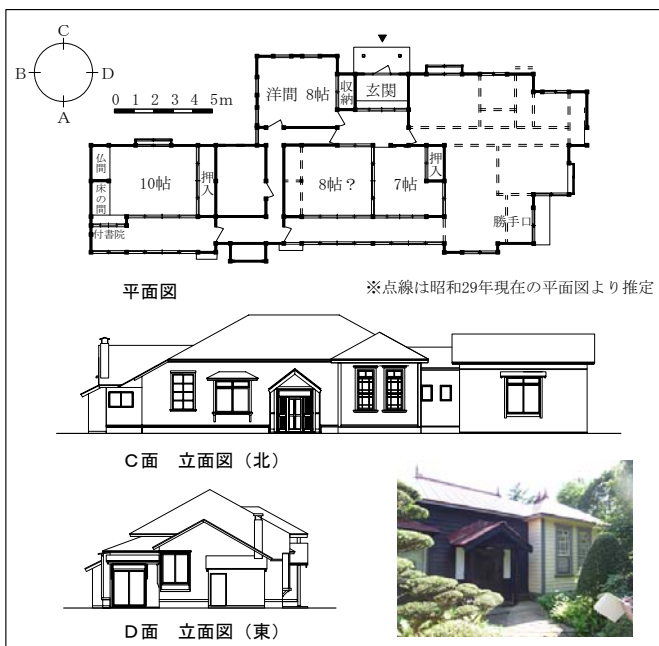


図2 日本甜菜製糖旧本社2号社宅の現状図

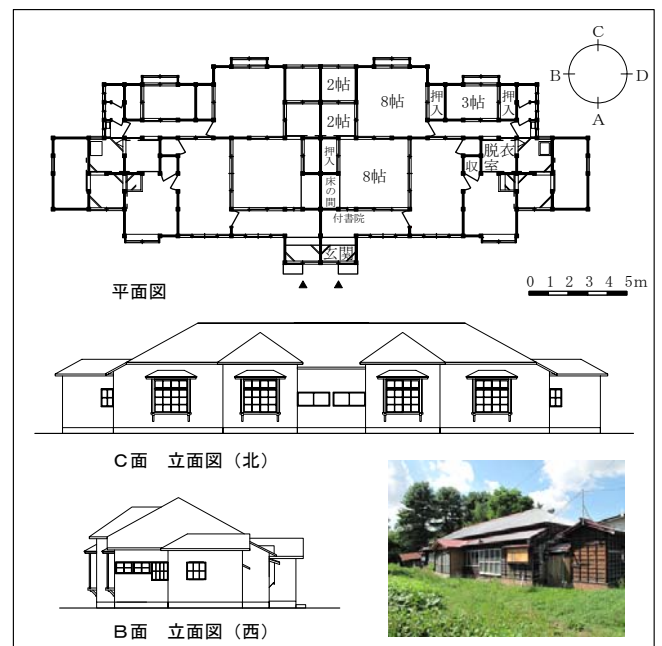


図4 日本甜菜製糖旧本社6号社宅の現状図

\* 熊本県立大学環境共生学部 准教授・博士 (工学)  
 \*\* 秋田工業高等専門学校環境都市工学科 准教授・博士 (工学)  
 \*\*\* アトリエ イマージュ

\* Assoc. Prof., Prefectural University of Kumamoto, Dr. Eng.  
 \*\* Assoc. Prof., Akita National College of Technology, Dr. Eng.  
 \*\*\* Atelier Image